

城取博幸の

リトアニア カウナスのスーパーマーケット見聞録

N0126

2019年3月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

杉原千畝関連 ③ 「カウナス中央駅」へ

ヴィリニユス駅からカウナス駅へ電車で移動する

カウナス中央駅



駅の構内



日本の十二支らしき絵も

チケットカウンター

英語はそこそこ通じる

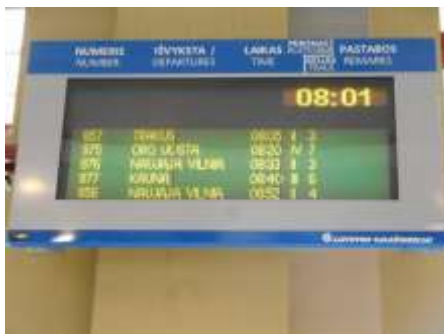


4.8 ユーロ これは後で分かった事だが、「普通席」の料金

カウナスまでは特急で1時間、普通で1時間半ほど

時刻表は隣のインフォメーションカウンターでもらえる

877 KAUNA 8時40分 III 6



表示のあるⅢの階段を登ると

ホームに線路がない



それでも表示がある

6番ホームはずっと奥

「Ⅲの6」の意味は、Ⅲの階段を登った6番プラットフォームの意味



建物に大きな人が



ヴェリニユス名物の大男



列車を見つけた



「Kaunas」と書かれている



真ん中のボタンを押せばドアが開く



2 階席へ



ここに座っていると、乗車中に車掌が「下に行け」という  
ここは別料金のファーストクラスの指定席であった  
そういえば、後から乗ってきた客が私の席の前でため息をついていた  
一言言って欲しかった

ここは一階の自由席  
たいして変わらない



昨晚雪が降った

カウナスまでは町らしい町はない  
こんなのどかな景色



「雪の華」





カウナス駅に到着



旧駅舎のようだ

ヴァリニユス方向

杉原千畝はここでビザを書きながらここからドイツに向かった



逆方向

新しい駅舎(ホーム側)



ホーム側の出口



出口の左にプレート



駅の入



駅前の景色

ちょっと寂しい

先ほどの旧駅舎



「杉原千畝記念館」に歩いて向かうには、道を渡って奥の階段を登れば近道だが  
信号がなく怖くて渡れない 歩道橋を渡ることにした



歩道橋を渡り、しばらく歩くとこんな階段が  
高台からカウナスの駅を見下ろす





こんな道を進む

ここは高台の高級住宅街



こんな古い建物

右側にクリーム色の建物が見えてきた



その反対側が「杉原千畝記念館」だ  
うっかりしていると通り過ぎてしまう



目立った看板は出ていない

次回は「杉原千畝記念館」を紹介します



#### 杉原千畝関連 ④

リトアニア カウナス「杉原千畝記念館」

杉原の家族が住んでいた元領事館跡

外務省の反対を押し切りユダヤ人に日本通過ビザを発給した場所

門や玄関は当時の写真とは少し違っている



「希望の門 命のヴィザ」と書かれている



見学者は別の入口から入る

入館口



まず、岐阜県八百津町(やおずちょう)杉原千畝記念館制作の日本語のビデオを見る

「葦(あし)のようになやかに 木のように堅くなるな」

故郷の八百津町を流れる「木曾川」



段々畑

杉原千畝の千畝の意味は、「千の畝(うね)」

段々畑の土手が盛り上がり千の畝のように見えることから「千畝」と名付けられたと言われている

有名な領事館前に集まるユダヤ人の写真

入口の門が見える



1600 枚のビザを発行

一家族一枚であったため、家族を含めると 6000 人ものビザを発行



カウナス駅でも出発まで書き続けた

「私にはもう書けません」と言った場所

残されたユダヤ人は強制収容所に送られ処刑された

その場所は後に紹介します

ドイツに向かう杉原には護衛がついていたという

これは初耳

はたして何人だったのか



1986年7月31日 享年86歳

生き残ったユダヤ人が杉原を探し当て名誉は回復された

外務省はひたすら隠し続けていた

八百津町の杉原千畝記念館前の平和のモニュメント

前に訪れたことがある場所



以上ビデオから

執務室の再現

机と日章旗



ユダヤ人のリスト

「シンドラーのリスト」ならぬ「杉原リスト」



発行したピザのコピー



カウナスからモスクワに向かい、それからシベリア鉄道に乗る



終点はウラジオストックユダヤ人はシベリア鉄道でウラジオストック、そこから日本の船で敦賀、横浜、神戸からアメリカ、オーストラリア、ヨーロッパへと渡った



上海 ユダヤ人居「住地跡」は前に紹介した  
メルボルンは先月紹介した



他の展示室



## 妻杉原幸子氏の遺影



著書は何度も読み返した

左からオランダ、リトアニア、日本、イスラエルの国旗



記念に日本から訪れた人の住所に国旗が刺さっている



長野県伊那市に旗を刺す

## 記帳



以前に紹介した4刷の本をプレゼントする

各2冊ずつ買っておいた

失礼がないよう新品をプレゼント

「一度も開いていない」というと、男性スタッフは本を開いてインクの臭いをかいで「新品だ」という  
こんなひょうきんなところもある

事務所に通され、コーヒーとチョコレートをいただき本の説明をさせていただいた

女性と男性の二人のスタッフは私の下手な英語を熱心に聞いてくれた

あいにく日本語を話すスタッフはいなかったが、

「大学の日本語学科の学生にプレゼントしてください」という旨を伝えた



お返しにリトアニア語、英語、日本語で書かれた「北のカサブランカ」という本をいただいた



3か国語で書かれているいい本だ

時間がある時にゆっくり読む予定

記念館を後にして、杉原が滞在した「メトロポールホテル」へと歩いて向かう



今回は⑤「メトロポールホテル」を紹介します  
ここに一泊する



カウナスのスーパーマーケット「MAXMA XXX」  
チェックして、カウナスのショッピングセンターへ歩いて向かう



カウナスの「アクオポリスショッピングセンター」



ショッピングセンターの中に「MAXIMA XXX」が入っている



1000 坪以上の大型スーパーマーケット



青果売場



チーズ売場





### 白カビサラミ

日本でも売られているが、「サラミを包んでいるビニールのような包装は食べられるのか？」

「よくビニールを食べてしまったどうしよう」という声を聞くが

これは豚の腸で食べられます

その理由は、ビニールの表面には白カビは生えませんが

堅いので無理して食べる必要はありませんが

### チルド商品は段ボール陳列もある



### ホットデリカの量り売り

これはインスタ製造

65°C以上の保存温度

当日売り切り



### チルド(2°C)の豚耳と豚足

豚肉はよく食べるようだ



チルド牛タンと豚タン



チルドスモーク魚



疑問に思っていたこと

1. この100アイテム以上品揃えされているチルド商品はどこで製造されているのか？

⇒これだけのアイテムをインスタで製造して冷却するのはムリ

センターで一括製造されて店に納品されているようだ

2. チルドなのか冷凍なのか？

⇒これは見た目では分からないが、冷チルの方がオペレーション、商品管理とも楽だ

3. 店は残品をどう処分するか

⇒売場を見て、同じアイテムがパック販売されている

そこから、チルド量り売りで何日か販売し、最終処分はパック販売であることが分かった

対面量り売りは「消費期限の表示不要」

パック販売は「消費期限の表示必要」



チルドサラダ売場

これもアウトパックの量り売り





サラダのパック商品

バラ販売されていたものがパックされている



チルド売場



ここも下段は袋入り牛乳

パン売場

名物の「揚げパン」

耳の部分だけではない



ドライ食品売場の日本食品コーナー





まきすや握り寿司のシャリの型抜きもレジ



購入商品

お土産用に購入した  
サラミは持ち込み禁止



揚げパン

揚げ方にばらつきがあり、一部油っぽい



今回は、カウナス観光とカウナスで一番古いジビエレストランを紹介します

カウナスでの食事

ホテルの朝食

日本のように品数は多くない

ボリュームから見てもそれほど宿泊者は多くない

「コーヒーを部屋で飲むから紙カップをください」というと快くLサイズのカップを渡してくれたサービスは申し分ない



あまり食欲がない 卵のオープン焼きがおいしかった



昼食

チェーン店の「SHOP & GO」

よく看板を見かける



ここのスタッフはチェーン店だけあって愛想がとてもいい

パンプキンスープ

どこも量が多くてお腹いっぱいになる



濃厚でおいしかった

ホットサンド



パンがパリッと焼いてあり美味しい

ここで、記念館でいただいた本に目を通す



夕食

ホテルのスタッフが勧めてくれたレストラン

グーグルマップでその場所まで来たが名前が違う



さらに探すと地図に書いてくれた名前のレストランが見つかった



時間は早いためまだ客はいない





窓の外のお城

だんだんと暗くなる

メニューはリトアニア語と英語

内陸部であるが魚が食べたかった



窓の外の色

魚のスープを注文

これは最高においしい



スープが透き通っている

野菜と魚のダシがしっかりと出ている、薄味で上品な味



メインは「キャットフィッシュ」

写真を見て勢いで注文したが、後で考えたら「キャットフィッシュ」って「なまず？」

失敗かな

日本人は、殆どナマズは食べない あのヌルっとした食感と臭いが苦手だ

白ワインはお任せで



盛り付けは最高



そら豆のバター炒めの上に切り身のナマズ



皮がヌルっとしているため剥がす  
思ったほどクセがない  
そら豆がおいしい  
スライスされたオレンジはパリパリ



デザート バニラのアイスクリームとコーヒー



せんべいのようなアーモンド菓子 これも名物菓子だ



感想は、料理やデザートに「パリパリ、カリカリ食感」の食材をうまく組み合わせている  
どこも野菜を下に敷き上にメインを盛り付けし、カラーコントロールもよくできている  
大いに参考になった

これだけ食べて飲んで、22.6 ユーロ(3000 円以下)

思わず二度見してしまった



ここなら毎日行ってもいいな

ヴェリウスよりカウナスの方が物価が安い

物価の安い所で、なかなか食べられない料理を食べるのがいい

カウナス観光

旧市街はそれほど広くないため、見て歩くのに半日もかからない

旧市庁舎 18 世紀のバロック様式の建築

外観の美しさから「白鳥」と称されている





広場の建物は



後から調べて分かったこと

ここは「フランシスコザビエル教会」

17世紀に建造されたバロック様式 ザビエルの像が立っている



カウナス城

ドイツ騎士団の侵略に備え 13世紀に建造された要塞

現在は塔と城壁の一部が残されている 中世からドイツはリトアニアにちょっかいを出していた



## 聖ペテロ&パウロ大聖堂

15世紀に建てられたカトリック教会の大聖堂

歴史的建物は旧市街の広場に集中している



美術館の「アリとキリギリス」

## 広場近くのレストラン



カウナスで一番古いレストラン

確かに古い歴史がありそうだ

リトアニアのレストランの相場が分かったので、ビビることはない



入口のメニュー

写真は分かるが言葉が分からない



レストラン内部

古い家具が使われている

壁の各カ所に野生動物の剥製が飾られている



かつてオープンとして使われていたのではないかとされる暖炉

まず「ホットジンジャー」を注文

リトアニアで一番気に入った飲み物



名物の「きのこのスープ」

ワインはお任せ

複数のきのこのダシがよくできているポタージュ



イノシシの煮込み



インゲン豆の上に切り身が3枚



獣臭やいやな臭いは一切しない  
ニンニクで臭いを消しているようなシンプルなものではない  
昔からの「血抜き法」「保存法」「調理法」があったのであろう  
濃厚で複雑なソース



イノシシ肉は豚肉の何倍ものうま味がある  
しっかりと味を噛みしめる  
これには大満足



デザートは「レモン味のソルベ」



コーヒーと共に



食べやすいよう半分に切れている



これだけ食べて会計は、30.5 ユーロ(約 4000 円)  
信じられない安さ



腹ごしらえをして、午後カウナスからヴィリウスに戻る

カウナス駅



駅構内にはこんな椅子とピアノ  
時々ピアノ演奏されている

今回は 2 階のファーストクラスを予約する



ヴィリウス行きの列車



旧駅舎をもう一度

ヴィリウスにもう一泊して、ヘルシンキ経由で帰国する